

実践7 「雨って面白い！」

概要 コロナ禍で、自粛登園の中、家庭と園それぞれで過ごす子ども同士が共有できるようにと、子どもの興味に添って雨の量調べを始めたことを契機に、子どもたちが、雨水への様々な興味を深めていく実践です。

ポイント コロナ禍での保育の工夫と、子どもの興味や人間関係が相まって、雨水の探究へと活動は展開します。一人の子どもの気づきや疑問が友達や異年齢児に広がり、共に考え合ったり、情報共有したりする姿、そこからさらなる発見が生まれていく過程に「科学する心」の育ちが読み取れます。

(福)照治福祉会 阿武山たつの子認定こども園

3～5歳児

もうすぐ梅雨の季節、保育者は、コロナ禍で登園自粛の期間、家庭で過ごしている友達と園で過ごす子どもたちが、同じ経験をし、共有できるものはないかと考えた。そこで、子どもたちの興味に添って、ペットボトルとマスキングテープを使って“梅雨の時期で1番雨が降った日はいつか？”を調べる実験を、子どもたちにも提案し、家庭にもお便りで知らせた。その後、子どもたちは、**空を見つめながら、「今日は雨降るかな？」などと友達と話す姿**がさらに多く見られるようになり、雨が降る日を楽しみにしている様子だった。そして、ペットボトルを使って雨を集め始めた。

※事例のAさん()は年齢

場面1：雨を捨てない！置いておきたい！

6月12日～7月30日



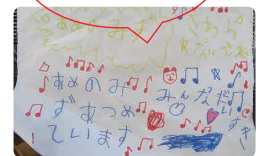
- ・久しぶりに登園した子どもにも進捗がわかるよう、ペットボトルに溜まった雨の量を、マスキングテープを使ってグラフにすることになった。
年上のお兄さんお姉さんが、真剣な表情でグラフを作る姿を見てDさん(3)Eさん(3)が「やりたい！」と保育者に言いに来た。そこで保育者が年上の子どもたちにそのことを伝え、「教えてくれる？」と尋ねると、年下の友達を気かけながら集めた雨を自慢げに測る姿があった。できたグラフを見た3歳児は「**(雨)いっぱいやな！と満足そうな表情**をしていた。
- ・**グラフが高くなるにつれ、ワクワクと嬉しそう**な子どもたち。たくさん雨を溜めて、グラフが前日より高くなると一層喜び、**雨を集めることにさらに夢中**になっていった。
- ・初日に溜めた雨がペットボトルに残っていたため、翌日の雨集めに使う事ができなかった。保育者がどうするか尋ねると…
Aさん(5)「捨てたくない、もったいない」
Aさん(5)「**空には雲があるから、もしかしたら置いてたら白くなるかも**」
Bさん(4)「**置いてたら固まるんちゃう？**」
周りの子どもたち「置いてきたい」「雨集めたい」
Cさん(5)「これに入れよう、大きいし！」
Cさん(5)が、水槽を提案し、「雨を集めています」の手紙をそこに貼った。

場面2：割れない雨の泡

6月18・25日



- ・ペットボトルに溜めた雨を水槽に移す際、表面に水泡ができた。
Dさん(5)：「**大きい泡、割れんの遅くない？**」
Jさん(5)：「**触ってみよう…え？あんまり割れへん！**」
Dさん(5)：「**ほら見て！引っ付いてくる！**」(指で泡を動かす)
Jさん(5)：「ほんまや！すげ！」
Dさん(5)：「**泡、牛乳に似てるな**」
- ・雨の水の水泡は、ねっとりとした弾力がありそれに似たものとして、おやつ牛乳をコップに入れる時にできる泡を思い出していた。
Bさん(5)：「**すごい！雨が引っ付いてくる**」
何度も水槽に手を入れて楽しむ子どもたちだった。

あめのみず
さわらないでね

場面3：キラキラ光る白いもの…これはなに？

6月30日



- ・朝から強い雨が降っていた。
- ・Bさん(5)：「先生、**雨が落ちたところ、キラキラ光ってる！**」
- ・保育者：「え？どれ？」 Bさん(5)：「**ほら動いてるやん！**」
- ・指を指した場所を見ると、雨が降った時にできる小さなしずきのような物が白く光り動いているように見えた。この日は特に強い雨だったので、テラスに降る雨が強



く打ち、今まで気づかなかったことに気づいた様子の子どもたちだった。

Bさん(5):「**なんで?!すごい!**」

他のたくさんの子どもたちも興味をもちテラス側の扉に集まった。

Bさん(5):「**分かった!雨やから泡がついて白いのが出るんや**」

Cさん(5):「**雨は空やから、小さい雪とか氷が入ってて、落ちた時に白く光るん違う?**」

Bさん(5):「**見て?すぐ触ったら手も光るで**」

濡れた手を、友達に見せて感じたことを共有する姿が見られた。

Gさん(4):「**ほんまや!めっちゃ光ってるやん!キラキラしてる!**」

キラキラ白く光るものに興味津々の子どもたちだった。

場面4:大発見!雨の水と水道水の違い

7月10日



・折り紙が好きなIさん(5)が、雨水を溜めた水槽に折り紙で使ったキンギョを貼りつけた。Iさん(5)の「泳いでるみたーい!」との発想から、集いの時間にクラスのみんなでキンギョを泳がせてみることにした。

・水道水…キンギョは浮き、雨水…くると丸まった

Iさん(5):「**すごい!**」 Hさん(3):「**動いたで!**」

Iさん(5):「**じゃあさ、次は粘土つけて沈めよう**」

・水道水…粘土を付けたキンギョがストンと沈んだ。

・雨の水…粘土を付けたキンギョが左右に揺れながら沈んだ。

Cさん(5):「**ユラユラした!**」 Gさん(4):「**すごいな!雨!**」

Bさん(5):「**じゃあ、泡は?**」と、**ままごとの泡立て器で2つを混ぜ比べた。**

・水道水と雨水に違いは、見つからなかった。

Kさん(4):「**音が違う**」 Bさん(5):「**ほんまや!みんな静かにして**」

Kさん(4):「**こっちが(水道水)カシャカシャでこっちが(雨の水)クチャクチャいって**」水槽に耳を当てて確かめる姿や、キンギョを泳がせて友達と発見を共有し楽しんだ。



場面5:グラフを見て子どもたちと雨を集めた量を振り返る

8月26日



Cさん(5):「**6月30日すご!多いな**」 Fさん(5):「10日と25日一緒に小さい」カレンダーを使って、雨が降った日に絵で印をつけた。

Cさん(5):「数えよう」 Bさん(5):「6月が5回で…7月が7回」

保育者:「8月は0回やね!」 子どもたち:「えー!」

Cさん(5):「全部で12回か…」 保育者:「8月降らなかったの不思議だね」

Cさん(5):「**8月は夏やから!梅雨ちゃうからや!**」

Fさん(5):「**じゃあ、12回また降ったら梅雨ってことなん?**」

子どもたち「ほんまや…」梅雨が再び来るのかどうか調べようとしていた。



【考察】・大人は予測しないような実験や発見が、子どもたちから生まれた。疑問との出会い、不思議に感じて確かめる姿から、考える力が育っていったように思う。子どもたちが、自ら発見することで自信を得て、疑問を次から次へと発見につなげ、その過程にはヒラメキが溢れていた。そして、活動自体が他の子どもたちや保育者、保護者も巻き込んで大きな渦へと育っていった。それが、子どもたちの「科学する心」を育てることにつながった。

・発見を重ねる度に興味が沸き、雨の性質についても知る事ができた。雨そのものについて知ることができたわけではないが水道水との違いに気づき、空への興味や関心に広がり、さらに人への興味や関心も「科学する心」を通して育つのだと感じた。子どもたちの自由な発想を楽しみ、人間関係の深まり、探求、発見してつくり出していく楽しさを共有しながら、子どもたちのワクワクするような活動を展開する姿を見守り寄り添っていくことの大切さなど、保育者も学ぶべきことがたくさんあった。

・普段何気なく過ごしながら、子どもたちの姿に寄り添ううちに、保育者自身も子どもたちの活動に巻き込まれていった。子どもたちと対話し、意見を言いたくなるような、言い合えるような安心した環境の工夫をしながら、傍に寄り添い、キラキラ輝くヒラメキを大切にする保育の大切さを実感した。